

## 令和6年度第1回経営会議 会議概要

### 1 開催日時

令和6年6月24日（月） 10:00～12:05

### 2 場 所

本部棟3階 大会議室

### 3 出席者（委員12名中11名出席）

学外委員：谷村委員、木村委員、菅原委員、小原委員、谷藤委員、佐々木委員  
（欠席：菅委員）

学内委員：千葉委員、鈴木委員、石堂委員、亀田委員、高橋委員

その他、各本部長、各学部長、各室長及び関係職員が出席。

### 4 審議事項及び審議結果

審議に先立ち、委員及び理事、本部長、学部長を御紹介した。

#### (1) 令和5年度決算について

業務実績の評価、及び収支決算について、それぞれ亀田委員、事務局から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

### 5 意見交換

岩手県立大学の取組について、鈴木委員より説明し、意見交換を行った。

### 6 その他

#### (1) 令和6年度入学者選抜試験の結果について

事務局から資料に基づき説明した。

#### (2) 岩手県立大学本庄照子奨学金の採用者決定について

事務局から資料に基づき説明した。

#### (3) 高等教育の修学支援新制度における多子世帯の中間層への対象拡大について

事務局から資料に基づき説明した。

#### (4) 岩手県立大学広報戦略の策定について

事務局から資料に基づき説明した。

- (5) 令和6年度科研費申請・採択結果及び令和7年度科研費申請に向けた取組について事務局から資料に基づき説明した。
- (6) 岩手県立大学データサイエンス・リカレント講座「地域DX推進セミナー」の開催について事務局から資料に基づき説明した。
- (7) その他  
岩手県立大学関連記事について、事務局から資料に基づき紹介した。また、机上配布資料として、令和4年度岩手県立大学年報、及び岩手県立大学ファクトブック vol.6 について紹介した。

## 7 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

- **B評価となった2つの項目の今年度の取組について（審議事項（1）関連）**

B評価の2つの項目について、さらなる取り組みや新たな取り組みが必要と記載があるが、今年度はどのような取り組みを行うのか質問された。

これに対して、研究の実施体制については、外部講師を招き、事前チェックの強化や意識醸成を図るといった取り組みに加え、現在作成している研究データベースを活用し、効率的なマッチングや公募情報の速やかな共有を実施し、積極的な外部資金への関わり方に取り組んでいきたいと考えている旨回答した。また、自己収入の確保については、同窓会等組織へのPRの場を活用した広報活動を継続して実施していくとともに、ホームページの構成を見直し、研究事例を積極的に外部へ発信するなど研究地域貢献の情報発信に取り組む旨回答した。

- **資産見返負債の廃止について（審議事項（1）関連）**

資産見返負債の廃止により、減価償却を試算見返負債の取崩しと減価償却費の計上を両建てで進めることで損益計算に影響を与えないようにする部分の考え方は無視することとなるが、財務状況を確認する際、帳簿上の利益は別途生じるため、ゆがみが生じてしまう。今後どのようなやり方が良いか、大学の方からも国の方に働きかけることが必要ではないかとの意見があった。

これに対して、帳簿上ベースで見かけの利益が生じる形となったが、県民に対し誤解を招く恐れがあるため、正しく伝えられるよう説明等に注意する旨説明した。

- **知財関連収入の計上及び退職給与引当について（審議事項（1）関連）**

知財関連の収入について、費用はどこに計上されているか、また、退職手当増について、民間企業だと退職給与引当金という勘定科目をバランスシートに載せるが、大学ではどのような扱いになっているか質問された。

これに対して、知財関連の収入は、雑益に財産貸付収入として計上していること、また、退職手当は、県から運営交付金として交付されており、退職給与引当金についてはバランスシートには計上していない旨回答した。

- **岩手県内就職への取組について（意見交換関連）**

岩手県の少子化が問題となっていることを受け、県内就職への取り組みなどについて質問された。

これに対して、岩手県知事との意見交換会において、卒業生の就職状況をテーマの一つとしたところであり、本学が果たす役割も非常に大きいと感じている。学部ごとに専門職等に関する県内での仕事の情報提供などを行っているが、県や産業界と連携しトータルパッケージで進めていく必要もあると考えており、どのように構築していくか今後検討を進めていく旨回答した。

- **女性の岩手県内就職への取組について（意見交換関連）**

女子学生が地元で活躍できる措置を期待しており、重点項目の企業学群の新設やDXの推進などは、岩手県の未来を考える上で、非常に先進的な取り組みであり、県立大学らしい取組である。特にソフトウェア情報学部はまだまだ女性が入ってくる余地があり、大学院進学と企業学群、DXの関係を絡めていくことが岩手の女性の定着という課題に対し県立大学が積極的に取り組む姿勢をアピールできるのではないかと思うので、参考に取り組んでいただきたい旨意見があった。

それに対して、小中高大連携の取組の中で、大学側から小中高へ訪問する方法もあるが、最近では大学へ来て大学のことを学びたいという要望が増えてきており、小さい頃からソフトウェアなど大学について関心を持つ機会ができていく旨説明した。

- **県民の幸福感に関する分析部会の資料提供について（意見交換関連）**

県民の幸福感に関する分析部会において、地域のつながりと幸福感の関係について議論が出ているが、内閣府が作成している地域の経済2023において、若い女性と地域とのつながりに関する分析をしている。県内就職、人口減少について次回経営会議で議論する際の資料にすると良いのではとの意見があった。

また、就職状況については、次回経営会議で再度資料提供等を行う旨回答した。

- **ブランドイメージについて（その他事項（4）関連）**

ブランドイメージを守っていくという観点がないと思われるので、これからの課題ととらえているのかもしれないが、ぜひそのような観点を持っていただきたい旨意見があった。

本学に関連の新聞記事の掲載においても、情報発信の在り方として統一的な広報活動ができていない部分がある。また、志願者及び志願者になりうる方を対象とした情報発信も意図して強化していく必要があると考えおり、今後具体的な検討作業の方で議論していく旨補足説明した。

以上